

豊かな自然の恵みの中で、歴史や文化とふれあえる街。

# 豊 のんほい広場 橋

## 鬼祭り

東三河地方に春を告げる祭りとして古くから受け継がれてきた安久美し神戸神社のお祭り、毎年2月10日、11日におこなわれます。

菜飯  
田楽

ちくわ

ブラック  
サンダー

## 豊橋の名産品

愛知県の南東部に位置する街・豊橋は、温暖な気候と太平洋・三河湾からの恵みを受け、さまざまな名産品を展開しています。



## 吉田城

吉田城がある豊橋公園には、ソメイヨシノ約500本が植栽されており、春にはサクラと城の調和が見事です。



## おでんしゃ

揺れる車窓から豊橋の街並みを眺めつつ、湯気あがるアツアツおでんを楽しめる、屋台感覚の冬の電車です。



**映画とロケのまち**  
豊かな自然と情緒ある街並みが、数々の映画やドラマのロケ地となっています。



## 次郎柿

豊橋が生産量日本一の次郎柿。シャキシャキした歯ごたえと、深みのある甘さが人気です。

## 表浜海岸

アカウミガメの産卵場所としても貴重な海岸です。夏場はサーフィンに訪れる人も多いスポットです。

※「のんほい」とは東三河の代表方言＝「のん」…「～ねえ」(今日はいいい天気だのん)【ほい】…「おい」「やあ」(ほい、今日は寒いのん)

国立大学法人  
**豊橋技術科学大学**  
TOYOHASHI  
UNIVERSITY OF TECHNOLOGY

平成31年3月発行 通刊第147号  
国立大学法人 豊橋技術科学大学 広報部会  
〒441-8580 愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1 TEL0532-47-0111(代)  
公式Facebookページ <https://www.facebook.com/toyohashi.tech>  
公式ウェブサイト <https://www.tut.ac.jp/>



2019.3 NO.147

# 天 白

国立大学法人  
**豊橋技術科学大学**  
TOYOHASHI  
UNIVERSITY OF TECHNOLOGY



## contents

- 02 キャンパス風景
- 04 特集「結成13年目の初挑戦」～EVでの完走を目標に～
- 06 天伯之城 ギカダイ
- 08 ギカダイ生の今!「好きな授業は？」
- 10 輝くギカダイ卒業生
- 11 News & Topics
- 12 のんほい広場



# 結成13年目の初挑戦

～EVでの完走を目標に～



まだ残暑の厳しい9月上旬、静岡県小笠山総合運動公園（エコパ）に全国各地より約110ものチームが集結。大学生活を車づくりに捧げた学生たちの長く、熱い戦い「第16回全日本学生フォーミュラ大会」の開幕だ。

## TUT FORMULA とは

“TUT FORMULA”は本学の自動車研究部のチーム。この大会に出場するためにボディからシートに至るまで学生が設計・製作し、1年間で1台、車輛を作り続けている。2005年に結成し、当時日本チーム初のCFRP（炭素繊維強化プラスチック）モノコックボディの車輛で参戦してから今年で13年目の活動。軽くて丈夫な素材で、飛行機やF1マシンに使われているCFRPを多く取り入れることで、毎年強豪校として活躍してきたが、13年目となる今年はさらなる飛躍のため、以前まで使用してきた600CCバイクのエンジンに代わりモーターを搭載したEV（電気自動車）での初参戦を決めた。

## EV初挑戦への険しい道

しかし、EV初参戦にあたり、悪戦苦闘の連続であった。部員の大半が機械系の学生で、電気系の知識に乏しかったため、スポンサー企業の電気系統に詳しい技術者に指導してもらったり、他大学と交流して情報を収集した。

当初、日産「リーフ」や本田技研工業「NSX」

のモーターを使わせてもらう話もあったが、TUT FORMULAのマシンは車体がコンパクトなのでそれらの機材では大きすぎた。また、海外チームの軽いEVにも負けない速い車輛を作りたいという思いから、電動スポーツバイクのモーターとインバーターを積んだ。このために海外製の電動スポーツバイクを1台購入して解体・研究したとのこと。ちなみに、バッテリーもバイク用を使う予定だったがレギュレーションに合わないということで、別のバッテリーを作って搭載している。

これらを実現するために開発資金も問題だったが、例年より15社程度多い65社からの協賛を仰ぎ、250万円の資金と部品の提供を受けた。

今までガソリン車で12年エントリーし好成績を取ってきたが、なぜEVに挑戦するのか・・・？それは短いコースで行われるこの大会には加速性能の高いEVの特性が向いており、将来的にはEVの方が有利になると判断し、新たな挑戦を決意したのだ。

今回の目標は2つ。「全競技完走」「EV最軽量化賞の獲得」である。今までガソリン車で完走できることは少ないらしい。また、EVは重量が重くなってしまうが、モーターの出力を下げることで、バッテリーも小さくできるため、研究や改良を重ねて軽量化を工夫してきた。



## 大会初日、技術車検からスタート そして静的審査へ（1日目・2日目）

大会初日は、ピットイン後、技術車検からスタート。こちらは問題なく通過。

2日目は、静的審査（デザイン、プレゼンテーション）。デザイン審査では、車輛を前に、審査員に向けて設計方法や車輛の性能について説明をする。プレゼンテーション審査では、審査員を企業の役員と見立てて、自分たちの車輛を売り込むプレゼンを行った。

## 動的審査もスタート 最終日に向けて（3日目・4日目）

3日目は怒濤の1日。残りの静的審査（コスト）と全車検。最後のレインテストをクリアして全車検を無事通過したときには拍手が起き、部員全員安堵の表情だった。午後からは実際に「走る」審査である動的審査のスタート。動的審査では、旋回性能を競う「スキッドパッド」、加速性能を競う「アクセラレーション」、コースの走行タイムを競う「オートクロス」の3競技が行われるが、本学はスキッドパッドとアクセラ審査を自己タイム更新という順調な走り出した。



4日目は最終日のエンデュランス審査に向けて、充電作業・車輛チェックなどを行う入念なメンテナンス日。**花形競技のエンデュランス（最終日）**

いよいよ7時半からのグループで5番手の出走。みんなが見守る中、部員全員の思いをのせた黒い車体が大舞台を疾走する。その結果は・・・みごと20周完走！最後の5周はアクセルのレスが悪く、ドライバーはひやひやしたそう。それでも、目標達成である！主な成績として、EVクラス3位（総合成績25位）、日本自動車工業会会長賞、省エネ賞1位、ルーキー賞（EV）、グッドアキュムレータコンテナデザイン賞2位、さらにもう1つの目標であった最軽量化賞（EV）という好成績を収めることができた。

「これは想像以上の結果だった。今回の経験を研究や卒業後にも活かしていきたい。」と部長の望月くんは語る。

進化していくTUT FORMULAの更なる飛躍に期待したい。



# てんぱくのしろ 天伯之城 ギカダイ



電気・電子情報工学系 助教 河村 剛

## 光のアンテナ –表面プラズモン共鳴–

**プラズモンって怪獣の名前みたいですね。**

プラズモンは電子が集団で振動する現象です。普通に電気が流れているときというのは電子が同じ方向に移動する状態なのですが、電子が狭い空間に閉じ込められたとき、細かく振動することがあります。そこに光を当てて、その光と同じ周波数で電子が振動する現象を特に、「表面プラズモン共鳴」と呼んでいます。もう2百年近く前から理論的にわかっている現象です。

**僕らのまわりにもプラズモンが利用されている物があつたりしますか。**

教会のステンドグラスは表面プラズモン共鳴が利用されています。ガラスに金をいれると赤く発色し、銅を入れると青く発色します。あと切子ガラスの発色も表面プラズモン共鳴です。

**先生はどんな研究をしているのですか。**

表面プラズモン共鳴には光を集める特性があつて、これを「アンテナ効果」と言っていますが、それを利用して、弱い光の中でも使える太陽電池とか光触媒ができないか研究しています。

**テレビやラジオのアンテナが電波を集めるように、プラズモンが光を集めるんですね。**

光の波長と同じ大きさの小さな金属のツブツブが光を閉じ込めてくれるので、弱い光でも太陽電池や光触媒が性能を出してくれるんです。

**ってことは曇りの日や夜間でも太陽光発電ができるんですか。そうですね。そこを目指して研究中です。**

**まだできていないんですか。**

できるはできるんですが、コストとか量産体制とか実用化するにはいろんなハードルがあるんです。表面プラズモン共鳴を効果的に起こす金属が、今のところ金とか銀とか高価なものしかないんです。

**金属なら何でもいいわけじゃないんですね。コストのほかにどんな課題があるんですか。**

電子が振動するときにすごく熱が発生するので、それが太陽電池の寿命を縮めてしまいます。でも光が弱い所は温度も低い所でもあるので、こちらはそんなに問題にならないことが多いです。

**では、コストの問題をなんとかすればいけそうじゃないですか。そこで我々は今、安価なアルミニウムで表面プラズモン共鳴を起こすことに挑んでいます。**

**おお!で、成果はいかがですか。**

芳しくないです(笑)。アルミは酸化しやすいので、空気に触れない加工法などまだまだ工夫が必要です。

**お金持ちでなくても表面プラズモン共鳴の恩恵が受けられるよう研究頑張ってください!**



豊橋技術科学大学はエフエム豊橋(84.3MHz)とのコラボレーションにより、本学のアクティビティを広く皆様にご紹介するラジオ広報を放送しています。その名も「天伯之城 ギカダイ」。

<https://www.tut.ac.jp/castle.html> ←こちらより視聴可能

エフエム豊橋の人気パーソナリティ渡辺欣生さんが、毎週、本学のいろいろな研究室、サークルなどを訪問し、普段、素朴に思う技科大の「なに?なぜ?どうして?」を分かりやすく紹介しています。その中から2つをご紹介します♪



機械工学系 助教 鹿毛 あずさ

## 泳ぐ微生物と重力

**シャーレの中に鮮やかな緑色の液体が入っていますね。**

この中で「クラミドモナス」っていう「藻」が泳いでいます。クラミドモナスは藻ですが単細胞の微生物で、直径10ミクロンほどの球形に近い細胞体を持っています。鞭毛という直径200ナノメートルほどの毛のような構造を使って泳ぎますが、光合成もするので植物と言えば植物です。

**へ~(と言ってシャーレを覗きこむ)この中で泳いでいるんですよ。緑色の液体にしか見えませんが。クラミドモナスは小さすぎて肉眼では見られません。でもよく見ると淀んでいて「この辺にいるのかなあ」とは思えますよね。ちょっと振ってみましょう。**

**あ、シャーレを振ったら淀みが取れて均一に緑色になりました。(1分ほど眺めていると)あ、もう何かの模様のように淀みが出てきましたね。**

緑が濃い部分と薄い部分が「豹柄」みたいに出てきましたよね。クラミドモナスの集団が泳ぐためにできる現象で、それを「生物対流」と呼んでいます。私たちは

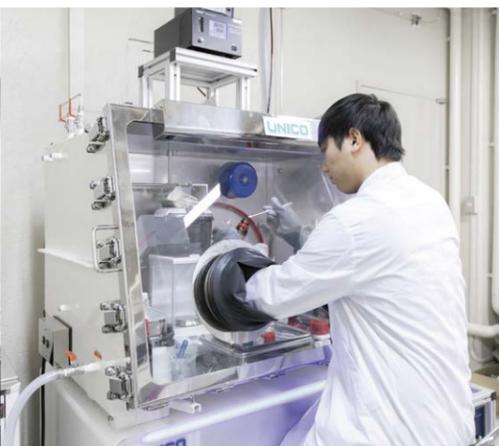
豹柄を見ると対流を連想する職業病にかかっています(笑)。対流っていうと、あたたかい水と冷たい水がぐるぐるまわる現象「熱対流」がおなじみですが、こっちは「生物対流」。似てますが熱は関係してないのです。重力や光、化学物質に反応した生物が泳ぐことで対流が起こるんです。

**「対流」っていうと反対側に降りてくる流れもありますけど。はい。彼らは水より重いので、クラミドモナスが上に偏って分布すると上に重い流体、下に軽い流体という不安定な状態になって、上の流体が下に落ちてくるんです。ほら、どんどん豹柄が大きくなって、ちょっとほっといた味噌汁みたいになってます。**

**生物対流というのは昔からわかっていた現象なんですか。英語の論文が最初に発表されたのが1911年ですが、昔のことなので技術的な制約もあって充分には解析されていません。重力を無くした実験もやってませんでしたからね。**

**今は重力を無くした実験をやってるんですか。**

なくすわけじゃないけれど小さな重力の元での実験をやっています。飛行機を弾道飛行させて重力変動させるやり方です。放物線状に飛行機を飛ばして20秒間ほど地上重力の1/100の状態を作ります。それを1時間に15回繰り返すので、搭乗者は気持ち悪くなっちゃいます。私はもう3回乗ってますが、毎回ひどい目にあっています。でもその結果、重力がない状態では生物対流が起きないことがわかりました。私は今年技科大に来たばかりですが、これからクラミドモナス1個体1個体が流れに対してどう影響を受けて泳ぐのか、泳ぐスピードより流体の流れが速いとき遅いとき何がどう違うのかなど解明していきたいです。



ギカダイ生の今!

# 好きな授業は？

※環境・生命工学課程/専攻は、2019年4月より、名称を応用化学・生命工学課程/専攻に変更します。

図面を描いたり  
模型を作ったりが  
イチバン楽しい!

建築・都市システム学課程 学部1年  
酒井 優人さん

建築設計演習の授業がイチバン好き! 子どもの頃から何かを作ることが好きだったので、図面を描いたり模型を作ったりする授業にとても興味を持ちました。まだ1年次なのでお手本を見ながら図面を模写したり、軸組模型を作ったりしました。将来は施工監理の仕事に就きたいので、そのために今図面がわかるようになりたいんです。



離散数学論の授業が好きです! 情報数学の分野のなかの、理論をやるのが離散数学です。もともと高専で、新しい定理や式をつくって、それをつくるには情報数学の基礎が必要なんです。数学的な考え方が身に付いていないと、新しく異なる考え方ができないからです。

新しい定理や式をつくるには  
情報数学の基礎が必要!

情報・知能工学課程 学部3年  
佐藤 瞳さん



止まっているのに  
動いて見える絵  
その原理は?

情報・知能工学課程 学部3年  
矢橋 琴音さん

北崎先生のヒューマン情報処理の授業が好き! 主に脳のメカニズムについて学んでいます。人間って錯覚をおこしたりするけど、それがどのような原理になっているのかわかるのが面白い。止まっているのに動いて見える絵とか、へこんでいるのに出っ張っている顔など、いろんな例を実際に見てからその原理を考えていくので、とても理解しやすいんです。

分子同士が  
混ざったり  
分離するのは  
なぜなのか?

環境・生命工学専攻 博士前期2年  
Melvin Goh Weishernさん  
(メルヴィン・ゴウ・ウェイシェン)

マレーシアから来ています。手老先生の授業で、界面化学が好きです。2つの物質が接する境界に生じる現象を学ぶ分野。たとえば、液相と固相の境界に何が起きているのかを学ぶんです。今やっている研究領域はコロイド界面化学。似たような分子同士でも混ざったり分離したりするのはなぜなのか、考えるのがとても面白い。



ソフトウェア演習IIIが好きです。授業では、JAVAという言語を使って問題を解いたり、自分でアプリケーションを作っています。スマートフォンのOSにアンドロイドという言語があり、それを構成している言語がJAVAです。この技術は、世界中でとても汎用性があると思います。画面上でものをつくることができます、そこが面白い!

JAVAという言語を  
使ってアプリを  
作ってます!

情報・知能工学課程 学部3年  
Michael Makoto Martinsenさん  
(マーティンセン・マイケル誠)



化学の授業なのに、  
授業のはじまりは  
英語スピーチ!

環境・生命工学課程 学部3年  
野島 直朗さん

大門先生の化学工学が好きです。初めて学ぶ人も、これまでやってきた人も、わかりやすく学べるのがこの授業の良いところ。先生の授業は大阪弁ですが、授業のはじまりでは、その時話題になっていることを英語で話して下さいます。化学工学というと難しく思うのですが、基本となる考え方を学ぶことができるので、ぜひお勧めしたいです!



計算結果が  
目に見えて  
わかるんですよ!

環境・生命工学課程 学部3年  
杉浦 貴生さん

好きな授業は環境・生命工学実験です。栗田先生はとても優しくわかりやすい。化学、生物、電気などの中から自分の好きなテーマを決めて実験。オシロスコープを使った授業では計算結果が目に見えてわかるんです。高校時代に習った公式は正しかったんだ! と理解したときなんでもう楽しいですよ!



材料エレクトロニクス論という授業では毎回先生が変わるんです。各研究室の先生が、通常なら2~3年かけて教える内容を1時間半にまとめて教えてくれます。自分の研究分野以外のことも知ることができるので視野が広がる。そこが楽しいんです。

各研究室の先生が  
研究テーマを  
要約して  
教えてくれます

電気・電子情報工学専攻 博士前期2年  
都築 圭太さん

優しい先生だから  
とっても  
話しやすかった

電気・電子情報工学専攻 博士前期1年  
Irna Puteri Shahbudinさん  
(イルナ・プテリ・シャハブディン)

2年前にマレーシアから来ました。数学の授業が好きです。微分積分を今やっていて、公式を使って解いていくのが楽しいです。日本語での授業は、はじめの頃はとても難しかったけど、授業後にわからなかったことを先生に教えてもらいました。優しい先生で話しやすく、勉強以外のこともアドバイスをいただけて助かりました。



バッテリーの研究を  
やっていて  
この知識を将来に  
活かしたい!

電気・電子情報工学専攻 特別研究学生  
Sally Mohamed Yousry Elsheikhさん  
(サリー・モハメッド・ユスリ・エルシェッハ)

2018年8月にエジプトから来ました。化学の授業が好きです。化学のなかでも電気化学に興味があります。今はバッテリーの研究をしていて、将来、新しいバッテリーを作ることに携わっていきたくらいなと思っています。頑張っていて日本語や日本文化を勉強しています。



授業がすべて  
英語だったので  
とても理解しやすかった!

機械工学専攻 博士後期2年  
Ho Duc Thoさん  
(ホ・ドゥ・トオ)

アドバンスドシステムコントロールという授業が好きです。この授業ではダイナミカルシステム(動的なシステム)について学びます。担当教員の寺嶋先生はとても優しい方で様々なことを教えていただきました。留学生生用の国際プログラムが用意されているため、授業やディスカッションがすべて英語でとても理解しやすかったです。



好きな授業は現代制御特論です。ロボットや自動車など、様々な機械に所望の動作をさせるための制御理論を学ぶ授業です。幼少期にホンドのアシモと出会い、それがきっかけでロボットに憧れ、興味を持つようになりました。今は自動制御系の研究室で日々研究に取り組んでいます。

ホンダのアシモとの  
出会いがきっかけで  
ロボットに興味を!

機械工学専攻 博士前期2年  
東海林 新樹さん

数式と図しか  
黒板に書かない!  
それが逆に  
わかりやすかった

機械工学専攻 博士後期1年  
笹竹 晴萌さん

物理学Iの授業が好き! 鈴木新一先生の授業で、物理の基本からわかりやすく教えていただきました。数式と図だけで教えるのが特徴で、通常は説明するために言葉も黒板に書きますが、本当に数式と図だけ! それに逆になりやすかった。数式を見ると、どのようなことを表しているのかわかるようになってきました。



2017年にブラジルから来ました。Computers and Educationの授業が好きでした。この授業では毎回プレゼンテーションをやっていて、自分が研究したことをまとめて皆さんの前で発表します。これを続けることでスピーチ能力がアップしたと思います。エンジニアとして企業で働きたい、さらに将来、機械運動学の先生になりたい。

この授業では  
毎回プレゼンテーション、  
おかげでスピーチ能力  
アップ!

機械工学専攻 博士前期2年  
Carlos Erlanさん  
(カルロス・エルラン)



正解というものが  
ないなかで  
利用する人のことを  
考えて設計する

建築・都市システム学専攻 博士前期2年  
沖津 慎吾さん

好きな授業は建築設計演習です。ある条件を与えられ、それに沿って自分でプランを考えます。その建物を利用する人のことを考えながら設計することが面白い。縮小サイズで模型を作るんですが、それも楽しいです。賑わいをつくるのが好きで、設計はそれに通ずると思います。



作り込んだ  
図のスライド  
これがとっても  
わかりやすい!

建築・都市システム学専攻 博士前期1年  
高野 一博さん

法律の授業で、蔡万里先生の知的財産法が好きです。特許とか権利について学ぶんですけど、将来は建築設計の方面に行きたいと思っているので、この授業がとってもためになると思っています。わかりやすい図を使って一から教えてくれるのがありがたい!



好きな授業は建設材料学です。設計系の研究室に入っていますが、空間の作り方を考えていく中で、材料が空間に与える影響は大きいと感じています。将来は建築設計に進みたいと思っていますので、この授業はとても役立ちそうです。リアルな設計を考える上で、材料の重要性に最近気づき、より興味がわいてきました。

リアルな設計を  
考える上で  
材料はとっても  
重要なんです

建築・都市システム学課程 学部4年  
前川 寛太さん

言語と思想Iの授業が好きです。病気とは何か、健康とは何かという哲学的なことを学んでいます。当たり前になっていることについて考えるんです。自分は設計系の学科なのですが、どうしてその形に設計するのかを考えるのと似た部分があり面白いなと思っています。

当たり前  
起こっていることを  
哲学的に考えるんです

建築・都市システム学課程 学部4年  
名草 健太さん



普段学んでいないことを  
知ることができて  
単位も取れちゃう

環境・生命工学専攻 博士前期1年  
山本 偉瑠さん

好きな授業は集中講義です。集中講義では、学内の先生だけでなく、他大学の先生や研究所の方が講義される時もあるので、自分の分野以外のことや最先端の研究について学ぶことができ、視野も広がります。普段とは違った講義を受けることができ、おまけに単位も取れてしまうというとてもオトクな講義です! !



ボクにとっては  
新しいことばかり!

建築・都市システム学専攻 博士前期1年  
高柳 林太郎さん

日本建築史の授業が好き。日本の城郭建築の例を主にあげ、その特徴を説明してくれました。初めて日本建築史の授業を受けて、いろんなデザインを見ることができて面白かった。他の大学から専門の先生がきてくださり講義内容も深く、僕にとっては新しいことばかりでした。



# 輝く ギカダイ卒業生



2009年3月  
生産システム工学専攻  
博士前期 修了

ヤマハ発動機株式会社

おくだ ゆうや  
**奥田 裕也**

## 現在の仕事の内容は何ですか？

現在はオフロード競技用バイクの車体設計業務に従事しています。モトクロスやエンデューロといったオフロード競技に出場する世界中の選手のためのマシン開発を一手に担っている部署で、主にホイール周りの設計を担当しています。

一昨年までは材料研究部門に所属しており、主にバイク向けに材料視点での構成部品の先行開発を行っていました。自身のスキルアップのため、そしてこれまでの経験を活用して、よりダイレクトにお客様に高い価値を提供したいとの思いから、社内公募制度を利用して昨年異動しました。

## 大学で学んだことで、仕事に役立っていることはありますか？

研究室では塑性加工を学び、部活動では学生フォーミュラに参加していました。そこで学んだ専門知識、プレゼン資料の作り方、企業の方との交渉、開発の進め方などが役に立っています。

魅力的な商品を開発するためには、構造設計、工法、材料の3つを正しく理解し、それらを上手にバランスさせる必要があります。大学の講義や研究で工法、材料を学び、部活動で構造設計についても学ぶことができました。これらが現在の基礎になっていますし、特に塑性加工はものづくりで非常に多用

されます。過去に開発したハンドルや燃料タンクにおいても、その経験、学びがとても役立ちました。

開発に限らず、仕事では計画⇒実行⇒評価⇒改善のサイクルを回すことが基本になります。研究でも学生フォーミュラでも短い期間でアウトプットが求められるので、時間切れにならないよう入念な計画とともに筋道を立て素早く進捗する必要があります。当時は大変でしたが、やり遂げたという経験が大きな自信になっています。また、自分一人では仕事は進められませんので、相手に理解してもらい仲間を増やすことがスムーズに仕事を進める上で大切です。企業の方への報告や学会発表の経験も、スキルの習得だけでなく自信に繋がっています。

## 豊橋技術科学大学ならではの良さはありますか？

大学院定員の多さ、3年次での研究室仮配属、4年次での実務訓練の3つです。

学部2年間の研究だけでは期間が短く、どうしてもやりきれない部分があると思います。その点豊橋技術科学大学では多くの進学者を見込んだ大学院の定員設定となっていますので、腰を据えた研究が可能です。3年次で仮配属があることも、自分の適性、やりたいことを見つけるのに役立ちました。

また、数日程度のインターンシップとは異なり、約2ヶ月間企業にて行う実務訓練では、志望する業種・業界、職種について肌で実感することができますし、実際の開発現場で仕事とその進め方について深く学ぶことができました。自身のスキルとしても志望先を検討する上でも非常に有意義でした。

## 仕事でのやりがい、今後の夢は何ですか？

お客様が求めているのは勝つためのマシンです。各社がしのぎを削り、非常に早いスピードで常に進化しています。そのため、新しいことに積極的にチャレンジできる場であると同時に、高い完成度も求められているところにやりがいを感じます。自ら考えたものが形になり、お客様に感動してもらうことができれば最高に嬉しく思いますし、YAMAHAのブルーのマシンが憧れの存在であり、パートナーとして生涯愛されるマシンでありブランドであってほしいと願っています。そのために、どこにも負けず、見て、乗って感動するマシンを開発し続けたいと考えています。



# NEWS & TOPICS

## World Robot Summit 2018 で好成績！

情報・知能工学系 三浦研究室のメンバーで構成されたチーム AISL-TUT が、10月17日～21日に開催されたWorld Robot Summit (WRS) 2018に出場し、パートナーロボットチャレンジ(リアルスペース)部門で、第3位(WRS実行委員長賞)に入賞しました。また、あわせて人工知能学会賞も受賞しました。

同じく、WRS2018 フューチャーコンビニエンスストアチャレンジ部門に出場した、チームST(本学ものづくりサークルメンバー、および新東工業株式会社社員にて構成)は、第8位となり、2020年に名古屋にて行われるWRC本大会では、さらに上位に挑戦します。



入賞したチームAISL-TUT(左)と、チームST(右)のメンバーとロボット

## 第35回オープンキャンパスに2,720名が来場！

8月25日(土)に第35回オープンキャンパスを開催しました。2,720名の方々が来場、数々のイベントを楽しみました。毎年好評の小学生向け体験学習教室、研究室公開などの他、今年は新たにスタンプラリーを実施、多くの参加者がスタンプを集めながら学内を奔走する姿が見られました。また、デザイナーの高橋正実さんデザインによるオリジナルエコバッグを来場者に配布、キャンパスが赤白黒のストライプで彩られました。



受付にてエコバッグを配布



小学生向け体験学習教室



吹奏楽団のミニコンサート

## 技科大祭を盛大に開催！

10月6日(土)と7日(日)に、第41回技科大祭を開催しました。今年度は「翔ける!」をテーマに実施し、2日間で延べ約2,200人の方々が来場しました。各課外活動団体が趣向を凝らしたイベント、実演、展示、模擬店出店などを行い、キャンパスは学生達の活気であふれました。1日目には、声優の井上麻里奈さんによるトークショーを、2日目には、東京03、東京ホテイソンの2組による「お笑いライブ!」を開催し、会場は大いに盛り上がりました。



盛り上がるステージイベント



模擬店販売の様子

## 福井国体の自転車競技愛知県代表に！

建築・都市システム学専攻博士前期課程1年 中川直樹さんが、9月24日～29日に福井県にて行われた第73回国民体育大会自転車競技大会に、愛知県代表として出場しました。中川さんは、高専5年生の時に父親の影響で自転車競技を始め、その疾走感に取りつかれ次第にのめり込みました。毎朝4時からのトレーニングを積み重ね、7月に行われた県代表選手選考会で優勝し、3年半という短い競技歴にもかかわらず、愛知県代表に選出されました。国体では3種目に出場し、結果は、ロードレースで32位、他2種目は予選落選と自身の目標には届きませんでしたが、堂々と戦い抜きました。



福井国体自転車競技(チームパシュート)にて疾走する中川さん(写真右)